

昭和二六年一〇月一日の町制施行を記念して江田島商工会主催で歌詞公募して制定。作曲は後に広島交響楽団初代音楽監督を務めた田頭徳治氏が担当している。

江田島音頭（オリジナル歌詞）

作詞者 安藤 壮一（山梨県）

作曲者 田頭 徳治

一、春の江田島とろりとないで／島が島呼ぶ海の風／うららの
どかなひつじの群れに／能美もかすみの薄化粧／ソレサッ
サヨイヨイ薄化粧

二、夏の江田島水着に明けて／海はにぎわう紅日傘／わけて自
慢は高須の浜よ／可愛いカモメも来てほめる／ソレサッサ
ヨイヨイ来てほめる

三、秋の江田島大空染めて／揺れるみかんの花ざかり／黄金色
づきや摘む娘（この唄が／みかん山から洩れてくる／ソレサ
ッサヨイヨイ洩れてくる

四、冬の江田島古鷹晴れて／寒さ知らずの別世界／ジャズのメ
ロディーホールの灯（ほ）かげ／ネオンいろどる夢の街／ソレ
サッサヨイヨイ夢の街

五、四季の江田島人波寄せて／ここは世紀のパラダイス／沖に
見えるは観光船か／今日も来る来るエトランゼ／ソレサッ
サヨイヨイエトランゼ

昭和三十一年に駐留軍が撤退して術科学校が横須賀から移転して以降次のように四番が歌詞変更となり五番は割愛された。

【現在の歌詞】

一、春の江田島とろりとないで／島が島呼ぶ海の風／うららの
どかなひつじの群れに／能美もかすみの薄化粧／ソレサッ
サヨイヨイ薄化粧

二、夏の江田島水着に明けて／海はにぎわう紅日傘／わけて自
慢は高須の浜よ／可愛いカモメも来てほめる／ソレサッサ
ヨイヨイ来てほめる

三、秋の江田島大空染めて／揺れるみかんの花ざかり／黄金色
づきや摘む娘（この唄が／みかん山から洩れてくる／ソレ
サッサヨイヨイ洩れてくる

四、冬の江田島古鷹晴れて／海の守りの学舎に／
励みいそしむ若人達は／松の緑ぞ命なれ／ソレサッサヨイ
ヨイ命なれ